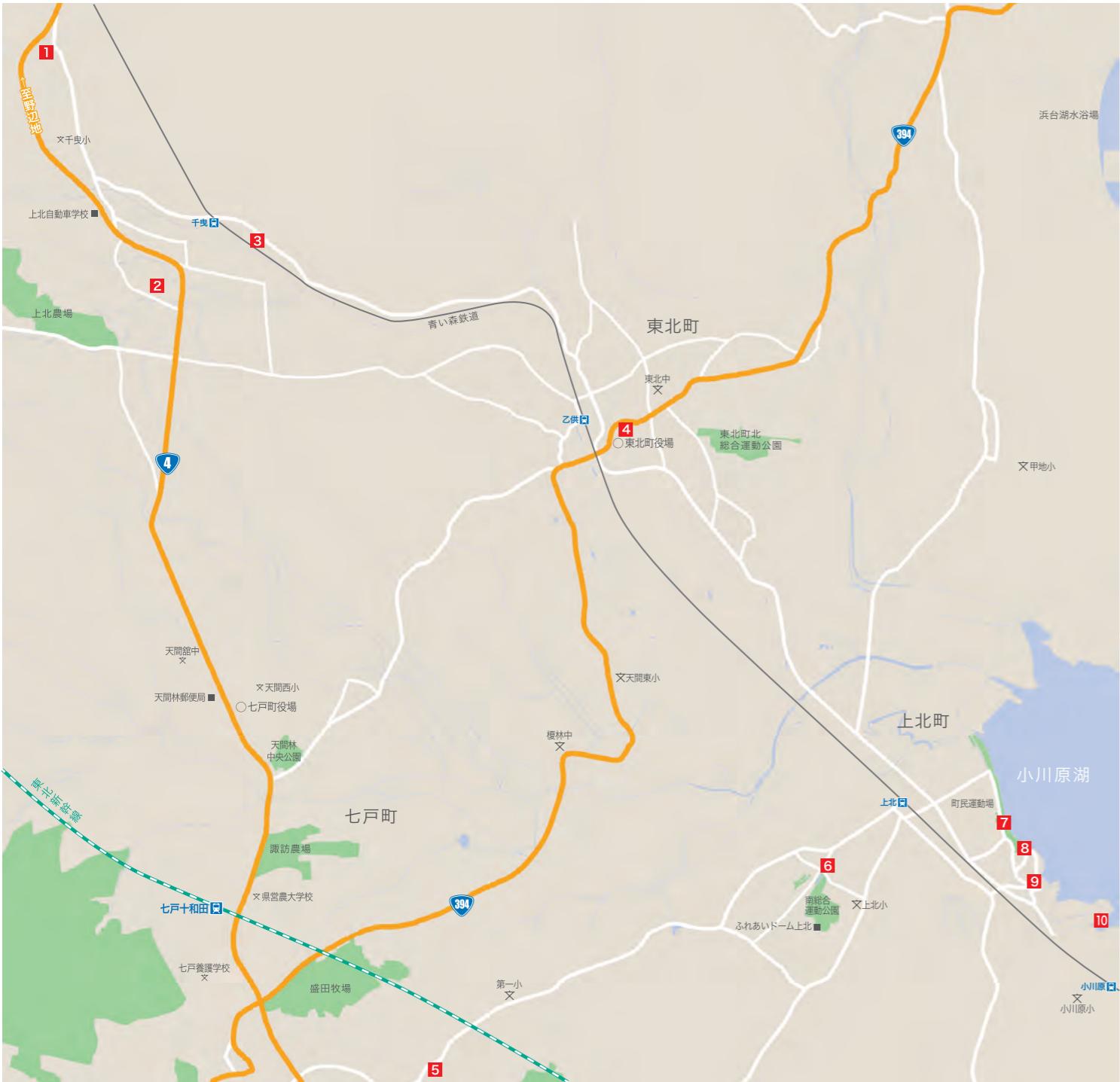


東北町～上北町



1 親巡蹟 東北町



県道8号線沿いの千曳集落のはずれの小高い丘、旧奥州街道(上道)にある碑で、明治天皇が東北御巡幸を行った際、明治9年7月13日野辺地町へ行かれる途中、東北町石坂のお野立所でご休憩された地を記念して昭和6年7月23日に建立されました。

2 日本中央の碑歴史公園 東北町

『日本中央の碑』を展示する保存館と、『つばのいしづみ』にちなんで詠まれた歌碑、句碑を展示公開しています。入場料は無料です。



3 日本中央の碑発見場所 東北町
悠久の口マンに委ねる『つばのいしづみ』の由来する『日本中央の碑』は、昭和24年6月21日、東北町内を流れる赤川上流の石文集落近くで発見された1.5mほどの自然石です。平成元年12月7日東北町有形文化財第1号として指定されました。

現在は、『日本中央の碑保存館』に展示公開されています。千曳駅から県道8号線を約1km乙供駅に向かった地点、駐車場より20m程階段を下った所に日本中央の碑の発見場所があります。



4 舟ヶ沢の丸木舟 東北町

昭和63年に小川原湖西岸の舟ヶ沢の漁民が、湖の水深19mの所から引き揚げたもの。櫂・櫓・棹など付属用具は発見されなかった。用材は杉で、480年ほど前に伐採し製作したとの説もあります。県の有形文化財に指定されています。



その後、姉妹は父の居る沼崎へと通われ、三尊仏となられたという。そして、今でも、仲の良い姉妹を象徴するように2つの湖はひっそり寄り添っているように見え、それぞれの湖のほとりに玉代姫は「姫戸大明神」勝世姫は「廣沼大明神」その真ん中には橋中納言道忠公が「沼崎観音」として祭られることになったのです。

現在、小川原湖畔には八甲田の恵みを仰ぐ玉代姫の姿と、湖の安全と幸せを祈る勝世姫の姿像が建立され、訪れる人々に姉妹の優しい思いを今に伝えています。

「念佛鶴舞」は、そんな悲しい物語で綴られる小川原湖伝説の供養が起源と言われております。

5 新館八幡神社 東北町



南部家の始祖・光行が甲州巨摩郷により、その氏神である正八幡宮を瀧沢村(現十和田市)に遷したが、その後光行の三男七戸太郎三郎朝清が1199年分霊して新館に創建したという言い伝えがあります。江戸時代、南部藩の厚い尊敬を受けた事を示す歴代藩主の棟札が多数存在しています。江戸時代には、流鏑馬の神事も行われ、八戸櫛引八幡宮流鏑馬の神事にも参加していました。

6 東北町歴史民俗資料館 東北町



6 東北町歴史民俗資料館 東北町

『御領分社堂』(成立宝曆の頃)の記録によると「広沼明神御宮 五尺、六尺五寸 板菱……別当三右衛門」と記録されていることから沼崎観音堂と同年代の創立と思われる。

7 玉代姫勝世姫像 東北町



小川原湖伝説に伝わる姫代姫・妹勝世姫が探した行方不明の父橋中納言道忠公が祀られているとされる観音堂。由来は不肖であるが、『御領分社堂』(成立宝曆の頃)に「沼崎村観音堂、六尺四面、萱ぶき、別当三右衛門」とあることから、創立は1750年代以前と思われる。この観音堂は、七戸作田親山社の神社から始まる七戸南部三三番補陀楽の一つで、三ニ番の札所として巡拝され、広く名の知れた御堂である。

【念佛鶴舞：県無形文化財】

毎年盆の7月13日、沼崎観音堂で踊り始めたあと、墓地で墓念仏を踊り、各家の先祖供養の踊りをする。4月21日の広沼大明神の例祭でも演じられます。小川原湖伝説に伝わる姉妹の靈を慰めて踊ったと伝えられるが、亡魂供養のため盆行事に演じた念佛踊りから始まったものであろう。



8 姉戸大明神 東北町



小川原湖伝説に伝わる『姫玉代姫』を祀る神社として姉沼を南方に見下ろす小高い丘の上にあります。以前は米軍施設の中にありました。昭和45年に今の場所に再建されました。御神体は石神様。